

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 北上管内で岩手県農業農村整備推進議員
クラブ現地研修会を開催2
- 疏水サミットin熊本2009が開催3
- 石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームが優勝4
- 県営黒岩地区農業基盤整備事業完工5
- 水土里ネット一本木で生き物調査を開催6

2009(9月号)No.545

■発行所/岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260
■編集発行人/川邊 賢治 ■印刷所/永代印刷株式会社
<http://www.iwatochi.com>

遅か彼方に(盛岡市玉山区観川) 平成20年度農村景観写真コンクール応募作品



北上管内で岩手県農業農村整備推進議員 クラブ現地研修会を開催

▶ 地元生産組合等と意見交換

9月10日、岩手県農業農村整備推進議員クラブ（会長：菊池勲氏）では、北上地域の農業農村整備事業の実施状況や営農組合等を研修し、農業農村整備事業の効果と効率的な作業手法の確立、地域資源の活用など創意工夫を凝らした営農活動等について理解を深めた。

今回は県営経営体育成基盤整備事業実施地区が2地区、そして生産組合等6団体の営農状況について説明を受けるなど、盛りだくさんの研修となった。



【北上南部大豆生産組合
千田順組合長】

経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区のほ場では、北上南部大豆生産組合千田順組合長が組合の営農状況を説明した後「水路からの漏水でほ場が水浸しになり、大豆の生育に悪影響

をあたえている。この事業を実施することにより大豆の品質向上と生産量の増加が図られると思う」と事業への期待を語った。

また、経営体育成基盤整備事業更木新田地区においては、北上川にかかる橋梁の用地の創設により、農家負担の軽減を図りつつ事業を進めていることなどを更木新田地区営農組合の遠藤福己氏が紹介した。

その後同地区にある、地域資源の発掘と地域おこしを目的として行われている桑茶工場の見学が行われ、農業生産法人「更木ふるさと興社」の小原孝也代表取締役は「桑の葉を更木地区の宝とし、地域の振興を図ってい

たい」と、抱負を述べた。一同は特色のある産地づくりと雇用創出の取組に関心を示していた。

二子地区交流センターでは、県担当者や現地で説明を行った生産組合長等が参加して議員らと意



【桑茶づくりを見学】

見交換を行った。参加者からは「農業所得が上がる長期的展望に立った政策を実現して欲しい」「生産組合や管理組合など様々な団体において各種事業を実施するための事務が非常に負担になってきているので簡素化して欲しい」等議員に対し要望が寄せられた。

また、議員からは北上地域で行われている農村と企業との活発な交流・協同活動「農業工業クラブ」の取組や、その推進体制等について質問がされるなど、活発に意見が交わされた。



【座長を務める菊池会長】

疏水サミットin熊本 2009 が 開 催

▶ 「過去から未来へ、ふるさとの水とみどりを守り育む」がテーマ

食料生産や環境保全など農業用水の持つ多面的な役割を多くの人々に理解してもらい、先人たちが守ってきた資源を次世代に伝えようと、全国水土里ネット、熊本県及び水土里ネット熊本の主催による「疏水サミットin熊本2009」が、9月2日～3日熊本市内の市民会館他において開催され、全国から約1,200名の関係者が参加した。

2日の午前中には、疏水ネットワーク総会が開催され、平成20年度事業報告及び決算報告と平成21年度事業計画及び予算（案）が承認、可決された。また、役員の改選も行われ、本県からは菊池勲 水土里ネット岩手中部理事長が副会長に選任された。

午後からはフォーラムが開催され、蒲島 郁夫 熊本県知事が「本県の農産物が美味しいのは、ミネラルウォーターとして販売しても、遜色ない水のおかげである。それは、地域の方々の弛まぬ環境美化活動により、水を守ってきたおかげだと認識している。是非、この滞在中に本県の農産物を召し上がっていただき、その質の高さを実感していただきたい」と挨拶を述べ

た。続いて来賓として出席した齋藤 晴美 農林水産省農村振興局次長は「疏水の歴史は、我が国の稲作の歴史であるとともに、農業生産基盤の一つである。しかし農村部の過疎化、高齢化が進み、その保全活動が困難となってきた。このサミットを機に、より多くの方々に疏水に関心をもっていただき、次世代に継承し発展することを願う」と述べた。

基調講演では、女優であり水の研究者としても活躍する大山のぶ代さんが「たかが水・されど水」と題し「今、我々が健康でいられるのは、先代から継承されてきた貴重な水のおかげである。これをいかにして、次世代に残していくかが、私たちの使命である。そのために、かけがえのない疏水の意義をよく理解することが大事である」と提言した。



【パネルディスカッションの様子】



【講演する大山 のぶ代さん】

パネルディスカッションでは「過去から未来へ、ふるさとの水とみどりを守り育む」をテーマに、林 良博東京大学大学院農学生命科学研究科教授をコーディネーターに、パネリストには齋藤 次長の他、大学教授や熊本市役所、水土里ネット、民間企業の方々を迎え、各々の立場からこれまでの疏水の歴史や今後の在り方について熱く語っていた。

翌日の現地研修は、天候にも恵まれ、上井手用水・南阿蘇村疏水群コースと通潤用水コースの2コースで開催された。参加者は、文化的景観を保護することや、水や緑等の資源を守っていくことの大切さを実感した様子であった。



【通潤橋の放水の様子】

なお、来年度のサミットは兵庫県で開催されることとなった。

石鳥谷東部・大迫町・ 猿ヶ石北部チームが優勝

▶ 水土里ネット親睦 ソフトボール大会開催

水土里ネット
いわて（会長：館
澤宏邦）では9月
17日、花巻市石
鳥谷の「ふれあい
運動公園」におい
て恒例の水土里
ネット親睦ソフ



トボール大会を開催し、県内各
地より13チーム約240名が参
加して熱戦が繰り広げられた。

開会式で館澤会長は「本日は、
多数のチームの参加をいただき
本大会が盛大に開催できます事
を御礼申し上げます。秋空の下、
お互いの融和をはかりつつチー
ムの優勝を目指して頑張ってい
ただきたい」と挨拶した。



【挨拶を述べる館澤会長】

大会当日は、天候にも恵まれ
川村 公男花巻市副市長の始球
式により試合が開始された。



水土里ネットいわてチームの対
戦となった。試合は、1回表に
石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北
部チームの打線が爆発し一挙に
12点を取り試合を優位にすす
めた。水土里ネットいわてチー
ムも粘りをみせたが及ばず、19
対16で石鳥谷東部・大迫町・
猿ヶ石北部チームが初優勝を
飾った。

【よし、ジャストミート！】

選手らは照りつける日
差しの中、チーム一丸と
なって練習の成果を遺憾
なく発揮し、白球を追
いかけ額に汗しながらプ
レーしていた。

決勝はともに初優勝を
かけ、石鳥谷東部・大迫
町・猿ヶ石北部チームと



【オーライ、オーライ！】



【優勝した石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チーム】

